

## 第12期Bコース（アメリカ）帰国レポート

令和6年8月に東京から出発した次世代リーダー育成道場第12期Bコースの研修生23名は、約10か月にわたるアメリカ留学を終え、無事に日本へ帰国しました。研修生はミシガン州やウィスコンシン州をはじめとする各地で、ホストファミリーのもと生活を送りながら現地の学校に通い、多様な文化や価値観に触れる中で、多くの学びと成長を遂げました。

帰国直前には、ミシガン州デトロイトにおいて、留学の総括としての特別プログラムが実施されました。このプログラムは、これまでの留学経験を振り返るとともに、今後の進路やグローバルリーダーとしての在り方を考える貴重な機会として位置付けられています。



<特別プログラム会場>



<お世話になったホストファミリーと>

### □ 第一日目

特別プログラム初日は、デトロイト市内での活動から始まりました。研修生はデトロイト美術館を訪問し、アメリカの歴史や文化、芸術に触れることで、留學生活の理解をさらに深めました。その後、グループワークを通して、これまでの留学経験を整理し、翌日に行うプレゼンテーションに向けた準備を行いました。

研修生同士で意見を交換しながら、自身の経験を言語化する過程では、各自の成長や課題が改めて明確になり、真剣に議論に取り組む姿が見られました。



<デトロイト美術館>



<グループワーク>

### □ 第二日目

2日目は、「Global Leader」をテーマとした講義を受講しました。講師からは、グローバル社会において求められる視点や行動力について具体的な事例を交えた講話があり、研修生は熱心に耳を傾けていました。

続いて行われたグループワークでは、講義内容を踏まえながら、これまでの留学経験をどのように社会に還元していくかについて議論し、プレゼンテーション資料の作成を行いました。

午後には、留学中にお世話になった方々へ感謝の気持ちを伝える「Letter Project」が実施されました。言葉の壁により十分に伝えきれなかった想いを、英語で丁寧に綴る姿が印象的でした。また、「Leadership Conversation」では、各自のリーダー経験を共有し合い、互いの学びを深めました。

その後のグループプレゼンテーションでは、各班が10か月間の留學生活を振り返り、学びや成果、そして今

後の目標について発表しました。発表内容からは、異文化理解の深化や主体的な行動力の向上など、研修生一人一人の成長が強く感じられました。



### <グループプレゼンテーションの様子>

#### 解団式

令和7年6月10日、研修生はデトロイト空港を出発し、羽田空港に到着しました。長時間の移動を終えた後も、研修生たちには最後まで責任ある行動を取る姿が見られました。

解団式では、引率者から「帰国は終わりではなく新たな始まりである」という趣旨の言葉が贈られ、研修生はこれまでの経験を今後どのように生かしていくかについて、改めて考える機会となりました。また、今後予定されている成果報告会や修了式に向けての案内もあり、帰国後の活動への意識も高まりました。

約10か月にわたる留学生活を通して、研修生は語学力の向上のみならず、多様な価値観を理解し、主体的に行動する力を身に付けました。多文化の中で生活する経験は、困難や葛藤を伴うものであった一方で、それらを乗り越えることが大きな成長へとつながりました。

今後、研修生には、この貴重な経験を自身の進路選択や社会貢献へとつなげていくことが期待されます。次世代を担うリーダーとして、それぞれの分野で活躍し、社会に新たな価値をもたらしていくことを心から願っています。



<デトロイト空港で手続きを行う研修生>